



あめ やすのかわ うけひ 天の安河の誓約

亡き母に逢いたいと泣き叫び、高天原に翔け上がったくる須佐之男命に、山や川が不気味に揺れ動きました。驚いた天照大御神は武装して待ちうけられましたが、命が「やましい心はない」というので、〈うけひ〉と言ってそれを験す占いをするようになりました。

そこで、天の安河を挟んで向かい合い、初めに天照大御神が須佐之男命のさげていた剣を借り、三つに打ち折りました。それを澄み切った天の泉でゆらゆらと洗い清め、囁みに囁んで吐き出した息のきらめく霧の中から、たおやかな三柱の女神がお生まれになりました。

つぎに須佐之男命が、天照大御神の身につけておりました五つの珠を借り、澄み切った天の泉でゆらゆらと洗い清め、囁みに囁んで吐き出した息のきらめく霧の中から、立派な男神が五柱お生まれになりました。

天照大御神が「私の珠から成った五柱の男神は、正しく吾が子。汝の剣から成った三柱の女神は即ち汝の子」と仰せられると、須佐之男命は「剣から、たおやかな女神が生まれたのは、私の心が清く明るい証拠。勝った!」と叫び、勢いあまつて、また、乱暴な振る舞いはじめました。

○天照大御神さまは、「清き明き直き正しき心」であることを何よりも大切にされておられました。

○あなたは、清き明き直き正しき心とは、どんな心だと考えますか。